

地域包括ケア推進会議における主な議論 (地域での対応方針・市レベルの課題)

- 令和元年6月～11月の間、地域包括ケア推進会議は各地区で合計14回開催され、特に災害について5つの地区で、移動支援について4つの地区で議論された。
医療・介護・福祉・地域関係者等のほか、テーマに応じて、警察、交通機関、宅配事業者、司法機関、近隣市職員等が参加して、地域課題の解決に向けて議論が行われた。
- 推進会議では、課題解決に向けて、地域での対応方針を決定する。地域で解決できない課題がある場合には、そうした課題を抽出した上で、市レベルの課題につなげる。

令和元年度 第2回 松戸市地域ケア会議
令和2年1月30日

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理①

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
1. 認知症	<p>○認知症についての相談先を知らない人が多い。</p> <p>○認知症高齢者数が増加している。</p> <p>○認知症になっても、周りの方の協力を得ながら地域で安心して暮らしていくためのサポートが必要。</p> <p>○オレンジ協力員の力を活かす取り組みと工夫が足りない。</p>	<p>○認知症の独居高齢者で、在宅生活を続けたいと希望しているが、そのために社会資源の活用を必要とする事例。</p> <p>○認知症の身寄りがいない高齢者で、自宅で最期まで暮らしたいが、周りから孤立し、ケアマネに公私を超えた要求をする事例。 【馬橋】</p>	<p>普及啓発</p> <p>○地域包括の周知の強化。 ○認知症サポーター養成講座等の実施 ○オレンジリングの存在と意味を地域に周知する。 ○地域の方に認知症の周知の機会を設ける。(施設の見学ツアー等を企画)</p>	<p>○地域包括を広く周知するため、市関係機関の窓口での情報発信の方法の検討。</p> <p>○支所で市や地域包括の取り組みをテレビ画面で流す。</p>	馬橋 明第 2西
			<p>連携強化</p> <p>○近所に気になる人が居た時に情報を伝えられる場や仕組みを検討。 ○オレンジ協力員の数増加の取り組み。 ○オレンジ協力員の勉強会・交流会を定期的に開催していく。 ○オレンジ協力員が実践できる場を考える。</p>	<p>○オレンジ協力員の取り組みの推進。</p>	
			<p>取組検討</p> <p>○認知症の家族と一緒に出かけられる場を作る。 ○認知症の人の支援が出来る人を増やす取り組み。 ○認知機能検査(ファイブコグ)を実施し、認知機能について客観的な評価を元にした個別の予防セルフケアを指導する。</p>	<p>○認知症カフェという名称に代わる呼び名の検討。</p>	

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理②

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
2. 介護予防	介護予防・重症化予防としてフレイル・サルコペニアへの取り組みが必要	急激に体重が減少し、自立度が低下、尿失禁による着衣汚染、誤嚥性肺炎が出てきた事例。	連携強化	フレイル対策として、住民主体の介護予防活動の会場を増やす。	介護予防・重症化予防としてフレイル・サルコペニア対策について介護専門職への普及が必要。	明第2西
3. 多分野地域共生	○高齢者分野の専門職が精神疾患についての相談先を十分理解していない。	60代前半独居で統合失調症のある方が急激に陽性症状が出現した事例【東部】	普及啓発	小・中学校で「障がい者教室」の実施。	小中学生へのアプローチについて教育委員会への働きかけ	東部 五香松飛台
	○介護分野の支援者の精神疾患についての知識が足りない。 ○共生社会の実現に向けて取り組む必要がある。		連携強化	地域包括支援センターがケアマネジャーを対象とした勉強会にて、障害分野の相談先や連携できる機関を紹介する。	○精神疾患についての研修会など普及啓発に努める。 ○ケアマネ向け研修会で障害分野の相談先や連携先について周知する。	

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理③

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
7. 移動支援	<p>○加齢や疾病、高齢者のみ世帯の増加により、買物に行けない高齢者が増えている。</p> <p>○買い物に行くことが難しい地域の高齢者に対する支援の検討が必要。</p> <p>○車を運転しなくても生活できる環境を整備する必要がある。</p> <p>○松戸市独自の運転免許自主返納者に対する支援措置がない。</p> <p>○身近なところに免許返納できる場がない。</p>	<p>○認知症の自覚がなく、免許返納を拒み運転を続ける独居の方への支援事例。</p> <p>○加齢や疾患に伴う身体機能の低下により外出ができないという問題を抱えた独居の地域住民が増えている。</p>	普及啓発	<p>○認知症サポーター養成講座で免許証返納について情報提供する。</p> <p>○警察に高齢者の運転免許証返納の講話を依頼する。</p> <p>○バス会社に優待証・高齢者支援パスについての講話を依頼する。</p> <p>○買い物優待サービス説明。</p>	運転免許証返納についての情報提供をする。	明第1 明第2西 明第2東 五香松飛台
				連携強化		
			取組検討	デイ送迎者の日中活用や有償での車の送迎を検討する。	住民による移動支援の体制づくりについて検討を行う。	

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理④

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
9. 見守り	<p>○マンション住民同士の関係が希薄であり、セキュリティも高いことから、中からも外からも把握ができない。</p> <p>○見守りを行う上で個人情報共有が難しい。</p> <p>○課題を抱えている高齢者が早期に適切な機関へつながりにくい</p> <p>○助け合いの仕組みづくりが必要</p> <p>○見守りの目を増やす必要がある</p> <p>○地域で見守り活動を行う組織が少なく、担い手が不足している。</p>	<p>○散歩中に迷子になり、何度も警察保護を繰り返している認知症高齢者。本人にとっては散歩は日課であり、健康維持として取り組んでいる。介護者は毎日一緒に歩くことは出来ず、散歩の支援が行える制度や社会資源はない。</p>	連携強化	<p>○活動に参加している一人一人が声掛けをし、仲間を増やす。</p> <p>○見守りを行っている企業と地域包括の連携を強化し、情報共有ができる関係づくりを行う。</p> <p>○顔の見える関係を作る。</p> <p>○近隣住民が包括などの相談機関に連絡を入れる基準となるツールの作成を検討する</p>	<p>○適切な関係機関へ支援が必要な人が繋がるような連携方法の検討。</p> <p>○見守り協定の締結先を増やし、見守り体制の強化を図る。</p>	本庁 五香松 飛台 六実六 高台
		<p>○閉じこもりがちで地域との交流がない事例</p> <p>○周囲の提案などの助言を聞き入れない独居高齢者</p>	取組検討	<p>○担い手にも健康維持などメリットがあるような活動にする。</p> <p>○現在取り組んでいる組織に働きかけ、他地区での好事例を地域へ広める。</p> <p>○個人情報保護の観点を踏まえつつ情報共有ができる仕組みを検討。</p> <p>○自主防災組織など、マンションごとのコミュニティづくりを行う。</p> <p>○毎週見守りパトウォークの実施。</p> <p>○散歩時（犬の散歩等）に腕章をつける</p> <p>○「子ども食堂」「集いの場」の実施</p> <p>○皆護ネットワーク（地域に住む専門職）協力者の募集</p>	<p>○閉じこもりや町会の未加入者、独居の方の把握・アプローチの方法を検討。</p> <p>○見守り活動をしているというシンボル（ビブス、腕章等）を統一化し、市民全体への認識を深める。</p>	

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑤

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
10.災害	<p>○要支援者の把握ができるとうよい。</p> <p>○避難所、防災資源の周知が必要。</p>	<p>高齢者のみの世帯で介護者がいてもどちらかの医療依存度が高い、双方に認知症や持病がある事例</p>	実態把握	<p>○どこにどんな人がいるのか把握する機会を設けることが必要。</p> <p>○町会員の希望や心配ごとをまとめる。</p> <p>○日頃からの近所づきあい、地域活動で世帯の状況を把握。声かけができる関係作り。</p> <p>○防災物品の確認を行う。</p>	<p>在宅で人工呼吸器、人工透析など医療機器・電源を使っている人の把握と対応を関係機関と連携し検討。</p>	<p>明第2西 小金原 新松戸 常盤平 馬橋西</p>
			普及啓発	<p>○様々な立場や職種が集まる機会、防災について情報共有する。日頃から周知していく。</p> <p>○日頃からマンションとその周辺住民（町会）との交流を図る（小学校学区での合同避難訓練等）。避難場所を明記したシートの作成、配布掲示。</p> <p>○回覧板で災害時の対応・対策を知らせる。</p> <p>○常にお薬手帳を持ち歩く。</p> <p>○『小金原版防災マップ』に避難する場合に不安な個所を載せる。さらに詳細な情報として町会版防災マップ作成を提案。一緒に町歩きを行い作成に協力する。全戸配布し活用化をめざす。</p>	<p>○ペット同行避難についての周知。</p> <p>○避難所の運営や環境整備についてアドバイスが得られる機会の提供。</p>	

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑥

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
10.災害	<ul style="list-style-type: none"> ○介護が必要な人の避難について議論が必要。 ○相談・支援機関が入っていないが配慮が必要な方の対応について検討が必要 ○要支援者が避難する場合に不安な箇所がある。 	<p>災害時帰宅できない家族から認知症の人の夜間を心配しケアマネに相談があった</p>	<p>連携強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者を中心に、ケアマネと協力して防災チェックシートを活用して平時から防災意識を高めてもらおう。 ○何かあった時に声をかける人、かけられる人がわかるようにしておく。防災対応に改定した『みまもりあいマップ』を有効に活用する ○出来るだけ町会等に入っていたく様、話しを進めていく。 ○町会長や民生委員が要支援者に対して適宜訪問し、日頃から関係性を作ることで、情報を受けられやすくなる。 ○防災無線の内容を周知することで、近所同士の付き合い等を密にしていく。 ○複数のサービスを利用している方の安否確認について事前に支援者間で決めておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地震だけでなく台風などを想定した災害対策について、関係機関、地域と議論を深める必要がある。 ○地域関係者が避難所について検討する際に医療・介護専門職が協力できる体制の整備。 ○避難所への医師や医療・介護スタッフの配置について検討が必要。 	<p>明第2西 小金原 新松戸 常盤平 馬橋西</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑦

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
10.災害	<p>○医療ケアや介護が必要な人が被災した場合に備える必要がある。</p> <p>○要支援者への援助についての取り決めが必要。</p> <p>○要支援者の避難所までの移動手段</p>	<p>エレベーターのないマンション4階居住の高齢者の災害時の避難はどのようにすればよいか。</p>	<p>取組検討</p>	<p>○町会で白地図を用い、独自の要配慮者名簿を作成し、町会・民生委員・相談協力員の3者で共有する。</p> <p>○役員一人一人が周りの家庭5軒の安否確認をする。</p> <p>○町内の安否確認活動の組織化。</p>	<p>○介護事業所、医療機関、施設の被災を想定し有事の際は事務所の場所や医療器具、介護用品を共有できる仕組みづくり。</p> <p>○要支援者の安否確認の仕組みづくり。</p> <p>○要支援者等が避難する際の交通手段や福祉用具貸与についての検討。</p> <p>○避難行動に支援を要する人が移動の際にスムーズに移動できる仕組みの検討。</p> <p>○福祉避難所運営についての検討。</p>	<p>明第2西 小金原 新松戸 常盤平 馬橋西</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑧

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
12. 自立支援 成年後見	高齢者の中には身寄りがなく保証人や死後の事務処理をしてくれる人がいない、人がおり、入院や施設入所の妨げになっている。	独居の80代。口腔底がんの手術後、飲み込みや発語が困難になり、外出機会が減り、地域との交流がなく孤立している。孤独死の不安はあるがうつ様症状もあり、エンディングについて行動を起こしていない。	普及啓発	元気なうちから「先の事を考える」（親族との関係を作っておく・お金の準備等）ことに向き合っていけるよう、啓発活動を行っていく。	終活支援等関係機関実施事業の周知協力。	常盤平団地

別添

各地域包括ケア推進会議における 参加者・議題・議論

(1) 参加者・議題

明第1地区推進会議（令和元年11月26日開催）

日時	参加者						議題
11月26日 (火) 14:00~ 16:00	町会	1	医師	3	ケアマネ	3	運転免許の自主返納者に対する優遇措置と移動支援の実情と課題
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	3	看護師	1	認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム	2	
	高支連		栄養士	1	地域包括	5	
	医学生		理学療法士		市役所	1	
			警察	2	まつどNPO協議会	1	
			消防		船橋商工振興課	2	
					京成タクシーHD	1	
				松戸新京成バス	2		
				その他	5		
				合計	36		

(2) 議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
<p>○車を運転しなくても生活できる環境を整備していく必要がある。</p> <p>○松戸市独自の運転免許自主返納者に対する支援措置がない。</p> <p>○身近なところに免許返納できる場がない。</p>	<p>認知症の自覚がなく、免許返納を拒み運転を続ける独居の方への支援事例</p>	○	<p>○高齢者の買い物困難地域を把握し、タクシー、バス会社に情報提供し、タクシー定期券などを検討してもらう。</p> <p>○警察に高齢者の運転免許証返納の講話を依頼する。</p> <p>○バス会社に優待証・高齢者支援パスについての講話を依頼する。</p> <p>○買い物優待サービス説明。</p> <p>○認知症サポーター養成講座で免許証返納について情報提供する。</p>	<p>○市がリーダーシップを取り、運転免許証返納促進をする。</p> <p>○運転免許証返納手続きの無料化。</p> <p>○運転免許証返納者に対する無料パス、バス料金優待。</p> <p>○コミュニティバス路線の拡大。</p> <p>○バス保有施設のバスを利用し、高齢者の交通手段を確保する。</p>

明第2西地区推進会議（令和元年11月13日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
11月13日 (水) 19:00~ 20:30	町会		医師	1	ケアマネ	5	1. 認知機能検査（ファイブコグテスト）の報告 2. 外出困難高齢者への買物支援ボランティア「すまいるショッピング」について 3. 「防災チェックシート」について
	地区社協		歯科医師	2	介護事業者	6	
	市社協	1	薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	2	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	6	
			理学・作業療法士	2	市役所	1	
			警察				
			消防				
					合計	28	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	認知症高齢者数が増加している。		○	○認知機能検査（ファイブコグ）を実施し、認知機能について客観的な評価を元にした個別の予防セルフケアを指導する。	
イ	介護予防・重症化予防としてフレイル・サルコペニアへの取り組みが必要	急激に体重が減少し、自立度が低下、尿失禁による着衣汚染、誤嚥性肺炎が出てきた事例。	○	○フレイル対策として、住民主体の介護予防活動の会場を増やす。	

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	加齢や疾病、高齢者のみ世帯の増加により、買物に行けない高齢者が増えている。		○	介護施設所有の車両と住民ボランティアを活用した、高齢者の買物支援を拡大していく。	市全体で、住民同士の支え合い・助け合いを考えてもらえる機運を盛り上げるイベントや企画を実施してもらいたい。
エ	災害時に洪水や液状化が起きるリスクが高い地域である。		○	災害弱者である高齢者を中心に、ケアマネジャーと協力して防災チェックシートを活用して平時から防災意識を高めてもらう。	

明第2東地区推進会議（令和元年9月18日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
7月17日 (水) 17:45~ 19:15	町会	6	医師	1	ケアマネ	5	○買い物支援難民の情報交換 ○明2西の取り組み紹介 ○グループワーク ○2層ワーキングの説明
	地区社協		歯科医師	2	介護事業者	5	
	市社協		薬剤師	2	通所介護		
	民生委員	2	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	5	
			理学療法士		市役所	1	
			警察				
			消防				
					合計	30	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	自身で買い物に行くことが 難しい地域の高齢者に対し て行える支援について	加齢や疾患に伴う身体機能 の低下により外出ができない という問題を抱えた独居 の地域住民が増えてきてい る現状がある	×	明第2西で実施している買 い物支援事業を参考にし、 圏域の地理的問題や安全性 等を踏まえたうえで実現で きるように準備していく。	ボランティア確保のための 周知について協力してほしい 松戸市市民活動総合補償制 度の対象となるか検討して ほしい

本庁地区推進会議（令和元年11月27日開催）

（１）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月27日 (水) 14:00~ 16:00	町会	3	医師	1	ケアマネ	3	地域力を上げるにはどのような取り組みができるか 1.包括支援センターより企業から聞き取った事例の報告 2.グループワーク「これまで対応した経験や困ったこと、適切な支援につながった事例の共有」 3.事例報告 (1) 松戸警察署 (2) ヤマト運輸株式会社 (3) 千葉県ヤクルト株式会社 (4) 明第2西地区オレンジ協力員 4.グループワーク「自分達の立場でどのような取り組みができるか」
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者	3	
	市社協		薬剤師	1	福祉用具	1	
	民生委員	3	作業療法士	1	訪問看護		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	3	
	まつどNPO法人		理学療法士		市役所	2	
	オレンジ協力員	1	警察	1	ヤマト運輸 2名 ヤクルト 1名		
			消防				
						合計	

（２）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	地域で見守り活動を行う組織が少なく、担い手が不足している。	散歩中に迷子になり、何度も警察保護を繰り返している認知症高齢者。散歩は日課であり、健康維持として取り組んでいる。介護者は毎日一緒に歩くことは出来ず、散歩の支援が行える制度や社会資源もない。	○	○活動に参加している一人一人が声掛けをし、仲間を増やしていく。 ○活動を行う側にもメリットがあるような活動にする（健康維持など） ○現状取り組んでいる組織に働きかけ、他地区での好事例の活動と同じ活動として地域へ広めていく。	○見守り活動をしているというシンボル（ビブス、腕章等）を統一化し、市民全体への認識を深める。

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	個人情報の共有が難しい。		○	個人情報保護の観点を踏まえつつ、それぞれの立場から情報共有ができる仕組みづくりを考える。	○見守り協定の締結先を増やす。 ○災害時に必要な情報が適切な機関に共有できるシステム作り
ウ	課題を抱えている高齢者が早期に適切な機関へつながりにくい。		○	○見守りをを行っている企業と地域包括の連携を強化し、情報共有ができるような関係づくりに取り組む。 ○他地区の好事例を参考に見守り活動組織をつくる。	
エ	マンション住民同士の関係が希薄であり、セキュリティも高いことから、中からも外からも把握ができない。		○	それぞれのマンションで自主防災組織をつくるなど、マンションごとのコミュニティづくりを行う。	

東部地区推進会議（令和元年9月11日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
9月11日 (水) 13:30~ 14:30	町会		医師	1	ケアマネ	4	1.個別ケア会議の振り返り（報告） 2.市地域ケア会議の報告 3.個別ケア会議で把握された地域課題「精神疾患のある方やその家族への支援者間の連携強化について」 グループワーク
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	1	
	市社協	1	薬剤師	2	通所介護	1	
	民生委員		看護師	1	認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	3	
			理学療法士		市役所	1	
			警察		福祉まるごと相談	1	
			消防		言語聴覚士	1	
					精神科クリニック事務	1	
				合計	20		

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	精神疾患について、相談先が分からない。	7/11 60歳 独居者 統合失調症 急激に陽性症状が出現	○	地域包括支援センターがケアマネジャーを対象とした勉強会にて、相談先や連携できる機関を紹介する。	ケアマネジャー向け研修会で相談先や連携先について周知をする。
イ	支援者が精神疾患について十分な知識がない。	7/11 60歳 独居者 統合失調症 急激に陽性症状が出現	○	地域包括支援センターが精神科医を講師として勉強会を開催する。	精神疾患についての研修会を開催する。

常盤平地区推進会議（令和元年11月21日開催）

（１）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月21日 (木) 13:30~ 15:30	町会	17	医師	1	ケアマネ	16	<ul style="list-style-type: none"> ・残存能力は高いものの、慣れない土地で閉じこもり気味になり、身体機能の低下が懸念される高齢者 ・精神疾患で10年閉じこもりの子と暮らす不安の強い高齢者 ・エレベーターのないマンション4階居住の高齢者の災害時の避難はどのようにすればよいか ・体が不自由で避難することが難しい為、災害時避難しないと決めている方をどう支援したらよいか
	地区社協		歯科医師		介護事業者	3	
	市社協	1	薬剤師	2	通所介護		
	民生委員		看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	2	グループホーム		
	高支連	6	医療相談員	1	地域包括	4	
			理学療法士	2	市役所	5	
			社会福祉士	1			
			行政書士	2			
					合計	63	

（２）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
1	誰がどんな助けを必要としているのか町会では把握できていない。	エレベーターのないマンション4階居住の高齢者の災害時の避難はどのようにすればよいか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ○町会の集まりに参加し、町会に自身のことを把握してもらおう自助努力も必要。 ○どこにどんな人がいるのか把握する機会を設けることが必要。 ○誰が何を必要としているのか、どこに何が足りないのか、集約した上で適切にフォローする体制を作るのが自治会。 ○避難訓練をおこなう。 ○町会員の希望や心配ごとをまとめる。 	○要配慮者名簿に手上げしていない人の情報を開示してほしい。

常盤平地区推進会議（令和元年11月21日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
2	医療ケアや介護が必要な人が被災した場合に備える必要がある。	エレベーターのないマンション4階居住の高齢者の災害時の避難はどのようにすればよいか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ○非常時持ち出し用の袋を用意しておく。 ○常にお薬手帳を持ち歩く意識を持つ。 ○家族と緊急時の対応を決めておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○町会と災害医療班と危機管理課の事前のすり合わせの場を設けてほしい。 ○避難所の担当医がいるといい。 ○集約した医療行為が必要な被災者人の情報を知らせる窓口の開設（福祉避難所への振り分け） ○医療や福祉の体制の伴う避難場所を増やしてほしい。 ○医療的ケアのために電源等が必要な方へ優先的に電気が使えるシステムを作り。 ○介護事業所、医療機関、施設の被災を想定し有事の際は事務所の場所や医療器具、介護用品を共有できる仕組みづくり。
3	要支援者への援助についての取り決めが必要。	エレベーターのないマンション4階居住の高齢者の災害時の避難はどのようにすればよいか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ○役員一人一人が周りの家庭5軒の安否確認をする。 ○町内の安否確認活動の組織化。 ○複数のサービスを利用している方の安否確認は誰がおこなうのか、事前に支援者間で決めておく。 ○町会で白地図を用い、独自の要配慮者名簿を作成し、町会・民生委員・相談協力員の3者で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○要配慮者にどの事業所が支援に入るのかの取り決め。 ○地域の小さい単位で安否確認をおこない、連絡網のようなものを用いて最終的には長に安否確認の結果や情報がいく仕組みづくり。

常盤平地区推進会議（令和元年11月21日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
4	避難所までの移動手段	エレベーターのないマンション4階居住の高齢者の災害時の避難はどのようにすればよいか。	○	○町会のリアカーを出す。がものは運べても人は難しいかもしれない。	○集合住宅等はエレベーターが使えないことを想定して担架、スロープ、大人用おんぶ紐等があるとよい。 ○避難所に空き家を活用してほしい。 ○災害時はコミュニティバスを避難所までの移動に活用してほしい。 ○避難する際に福祉用具を貸し出してもらえるシステム。
5	情報が途絶えてしまう。	エレベーターのないマンション4階居住の高齢者の災害時の避難はどのようにすればよいか。	○	○回覧板で災害時の対応・対策を知らせる。	○ネットが使えない高齢者や障害者のために自宅に災害情報の受信ができるようなスピーカーや防災無線受信機の貸与を検討してほしい。

常盤平地区推進会議（令和元年11月21日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
6	避難所の運営	エレベーターのないマンション4階居住の高齢者の災害時の避難はどのようにすればよいか。	○	○HUG訓練を地区単位で実施する。 ○避難所が開設された際に、現地へ駆け付ける町会員を決めておく。	○避難所の学校、市民センター、福祉事務所、町会、市が話し合い、細かいマニュアルを作る機会。 ○ペットと一緒に避難できるようにしてほしい。 ○事前に避難所の環境整備（一人当たりの空間づくりや同線の確保等）のアドバイスを専門家から受ける機会を設ける。 ○避難所が足りなくなることもあるため、車で避難できる場所（校庭、グラウンドスーパーの駐車場）等も情報開示する。 ○有事の際は自宅を避難場所として提供してよいという人を募り、掲示板を作成。
7	ライフラインが止まった時の想定、何もできない時の想定を町会、自治会は考えないといけない。	エレベーターのないマンション4階居住の高齢者の災害時の避難はどのようにすればよいか。	○	○町会で発電機や飲料水、備蓄食品を用意する。	○避難所運営のメンバーに地区の介護事業所、医療機関等の専門職を入れることを義務化してほしい（PT、要具、介護関係、薬剤師、医師、看護師、MSW等）

常盤平団地地区推進会議（令和元年7月4日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
7月4日 (木) 13:30~ 15:00	町会	4	医師	1	ケアマネ	4	1. 団地在住の高齢者の中には、身寄りがないがために「保証人がいない。」といった方がいて、入院や施設入所の妨げになっている。これからも、増え続けていくであろうこのようなケースに対し、どのように対応していけば良いか。
	地区社協	2	歯科医師		介護事業者		
	市社協	2	薬剤師		通所介護	1	
	民生委員	5	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		グループホーム		
	高支連		医療相談員	1	地域包括	3	
			作業療法士	1	市役所	1	
			警察		URコミュニティ	2	
			消防		司法書士	1	
					市議会議員	1	
				合計	29		

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	団地在住の高齢者の中には身寄りがないがために「保証人がいない。」「死後の事務処理をしてくれる人がいない。」といった方がいて、入院や施設入所の妨げになっている。	独居80代男性。口腔底がんの手術後、飲み込みや発語が困難になり、外出機会が減り、地域との交流がなく孤立している。孤独死の不安はあるが、うつ症状もあり、エンディングについて行動を起こしていない。	×	○元気なうちから「先の事を考える」ことに向き合っていく。啓発活動を行っていく。（親族との関係を作っておく・お金の準備等の自助努力。）	○どの病院・施設も「保証人」に対して同じ受け入れ体制にする共通ルールの整備。 ○終活支援事業の相談窓口の設置等、社協の事業のバックアップ。

五香松飛台地区推進会議（令和元年6月20日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
	町会	4	医師	3	ケアマネ	6	
6月20日 (木) 13:30~ 15:30	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者		1.地域ケア推進会議の説明 2.五香松飛台地区の現状 3.地域作り交流会の説明 4.グループワーク「住みやすい地域にする為に」 5.その他
	市社協	1	薬剤師		通所介護		
	民生委員	5	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連	6	生活相談員	1	地域包括	4	
	皆護ネットワーク	3	理学療法士	1	市役所	1	
	防災ボランティア		警察		障害者相談室	1	
			消防		まつどNPO協議会	1	
				包括実習生	1		
				管理栄養士	2		
				合計	43		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	見守りの目を増やす		○	○毎週見守りパトウォークの実施。 ○散歩時（犬の散歩等）に腕章をつける ○「子ども食堂」「集いの場」の実施 ○皆護ネットワーク協力者の募集	
イ	共生社会の実現		○	○小・中学校で「障がい者教室」 ○認知症サポーター養成講座等の実施	○小中学生へのアプローチについて教育委員会への働きかけ
ウ	買い物支援		○	○デイ送迎者の日中活用 ○有償での車の送迎	○インフォーマル支援の実現のためにボランティアをポイント制にして将来自分の必要時に還元できる仕組みの構築

六実六高台地区推進会議（令和元年11月6日開催）

（１）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月6日 (水) 13:30~ 15:30	町会	1	医師	1	ケアマネ	7	1.参加委員の自己紹介 2.地域ケア会議について 3.令和元年度上半期地域包括支援センターの活動報告 4.令和元年度上半期地域個別ケア会議・松戸市地域ケア会議の報告 5.課題検討：地域づくり～助けあいとは ①助けあいとは ②助けあいの仕組みを作るにはどうしたらよいか？ 6.次回以降の地域ケア会議について 7.その他
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者	4	
	市社協	1	薬剤師	1	通所介護		
	民生委員		看護師		認知症デイ		
	ボランティア	2	保健師	1	グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
	元気応援	1	理学療法士	1	市役所	1	
	老人会	1	警察		NPO協議会	1	
			消防		合計	27	

（２）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	地域づくり～助けあいとは～ ①助けあいとは？	閉じこもりがちで地域との交流がない	○	○顔の見える関係作りを作っていく。	○閉じこもりや町会の未加入者、独居の方へのアプローチ
イ	②助けあいの仕組みを作るにはどうしたら良いか？	周囲の提案などの助言を拒否する独居高齢者の支援	○	○近隣住民が包括などの相談機関に連絡を入れる基準となるツールの作成を検討する。	○適切な関係機関(行政・包括・医療機関・保健福祉センター・地域など)へ支援が必要な人が繋がるような連携方法の検討。

小金原地区推進会議（令和元年11月15日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月15日 (金) 13:00~ 14:30	町会	9	医師		ケアマネ	6	1.令和元年度 第2回・第3回地域個別ケア会議のまとめ 2.令和元年度第1回地域包括ケア推進会議までの振り返り 3.地域でできること・地域について知ろう『防災マップを作ろう』（グループワーク）
			歯科医師	1	介護事業者	3	
	市社協		認知症疾患医療センター	1	通所介護	2	
	民生委員				認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム	2	
	高支連	4	作業療法士	1	地域包括	6	
	オレンジ協力員		在宅医療介護連携支援センター	1	市役所 (危機管理課、障害福祉課等)	4	
	防災部	2	警察				
	支所	1	消防	1			
					合計	45	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	災害発生時自助だけでは対応できない世帯が多い。	高齢者のみの世帯で介護者がいてもどちらかの医療依存度が高い、双方に認知症や持病があるケース。	○	何かあった時に声をかける人、かけられる人がわかるようにしておく。防災対応に改定した『みまもりあいマップ』を有効に活用できるようにする。	在宅で人工呼吸器、人工透析など医療機器を使っている人の把握。
イ	日常生活を送るには支障ないが、突発的な災害発生時支援対象となる世帯が把握できていない。	災害時帰宅できない家族から認知症の人の夜間を心配しケアマネに相談があった。	○	日頃からの近所づきあい、地域活動で世帯の状況を把握。声かけができる関係作り。	
ウ	避難所、防災資源などが周知されていない。	—	○	『小金原版防災マップ』の作成。全戸配布し活用化をめざす。	

小金原地区推進会議（令和元年11月15日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
工	要配慮者が避難する場合、心配される箇所がある。	—	○	『小金原版防災マップ』に情報として載せる。さらに詳細な情報として町会版防災マップ作成を提案。一緒に町歩きを行い作成に協力する。	歩道の桜の根の凸凹解消など安全に通行できるような歩道の整備。

新松戸地区推進会議（令和元年11月21日開催）

（１）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月21日 (木) 10:00~ 12:00	町会	2	医師	2	ケアマネ	3	1.新松戸地域包括支援センター活動報告 2.推進、個別ケア会議の振り返り(R元年9月開催分) 3.防災・災害について 現場で行ったことの共有、グループワーク 4来年度の日程について
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者		
	市社協	1	薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	1	訪問看護師	1	認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム	1	
	高支連	1	医療相談員	1	地域包括	4	
			理学療法士	2	市役所	2	
			警察				
			消防				
					合計	24	

（２）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	今回の台風、大雨については、今まで被災したことがなく、大丈夫だろうと、危機感がなかった。防災倉庫の場所や内容が分からない。		○	いろいろな立場や職種が適宜集まりを持ち、情報共有していく。日頃から周知していく。防災物品の確認。	

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	サービス利用者に対しては事前に対策がとれたが、サービスの繋がりが無い、家族（子どもが発達障害等）の問題がある家庭の対応が難しい。相談する所もわからない。		○	出来るだけ町会等に入っただけ様、話しを進めていく。サービス等利用者については、CMを中心にSSやレスパイト入院にする等の対策。	日頃、サービス利用いが無い方の相談窓口を明確にしてもらう。電源が必要な方についての検討。
ウ	松戸市の放送が、風雨にかき消され、聞こえなかった。開いている避難所について、メールで確認するとして、見られない人はどうするか		○	松戸市の考え方を周知徹底することで、近所同士の付き合い等を密にしていく。	放送が聞こえるとは思っておらず、何か言ってるな、と意識し自らTVやラジオ等で情報を得てほしい。
エ	マンション避難については、在宅避難が基本とされている。浸水の場合、周辺の住民も避難してくる可能性があるが、そこまでの把握は難しい。		○	日頃から周辺住民（町会）との交流を図っていく（小学校学区での合同避難訓練等）。避難場所を明記したシートの作成、配布掲示。	
オ	何らかの介護が必要な方を避難所に連れて行っても介護者が居なかったり、福祉避難所が開いていなかった。		×		避難所に介護職の配置等検討してもらう。移動の際、タクシーを無料で使用でき、後日タクシー業者から市に請求するしくみ等検討してもらう。福祉避難所を開けてほしい。
カ	個人情報オープンにしないしてほしいという人もいる。		○	町会長や民生委員による適宜訪問。日頃から関係性を作っていくことで、情報を受けられやすくなる。	

馬橋西地区推進会議（令和元年11月15日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月15日 (金) 19:00～ 20:30	町会		医師		ケアマネ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の個別会議のモニタリングについて ・地域課題について ・松戸システムⅡ ・各関係者及び団体からの連絡事項等 ・次回開催日程のお知らせ
	地区社協	2	歯科医師	1	介護事業者		
	市社協	1	薬剤師	2	通所介護	1	
	民生委員	3	看護師		認知症デイ	1	
	ボランティア		保健師	1	グループホーム	1	
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
	オレンジ協力員		理学療法士		市役所	1	
			警察		その他（リハビリ職）1		
			消防				
						合計	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	災害発生時の要介護者等への対応を視野に入れた困難事例における医療対応の推進が必要。	アパートで1階住まいの高齢者。独居で耳が遠い方の避難と移動の支援	○	<ul style="list-style-type: none"> ○安否確認の役割分担。 ○避難行動要支援者名簿の活用方法が町会、民生等での理解の相違がある為、活用法の確認を行う。 ○災害時等への対応を含め、現在医療、介護が必要な方に対する、アウトリーチの事業の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ○停電の際の医療依存度が高い方の対応方法。 ○避難時の移動支援について、台風のように前もってわかる為バスで市内を回る等の検討。 ○避難行動要支援者名簿の活用方法についての周知

馬橋地区推進会議（令和元年9月5日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
9月5日 (木) 9:30~ 11:00	町会		医師	1	ケアマネ	2	1.地域ケア会議の三層構造について 2.地域課題についての話し合い 「地域の認知症見守りに、オレンジ協力員の力を活かす取り組みや工夫とは？」 3.市地域ケア会議の報告、その他連絡事項
	地区社協		歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師	1	通所介護	1	
	民生委員	2	看護師	1	認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連		作業療法士	1	地域包括	5	
			理学療法士	1	市役所	1	
			警察		訪問介護	1	
			消防		小規多機能	1	
					合計	19	

（2）議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア 認知症になっても、周りの方の協力をえながら地域で安心して暮らしていくにはどのようなサポートがあったら良いか。	○認知症の独居男性で、在宅生活を続けたいと希望しているが、そのために社会資源の活用を必要とする事例。 ○認知症の身寄りがない高齢者で、自宅で最期まで暮らしたいが、周りから孤立し、ケアマネに公私を超えた要求をする事例。	○	○地域の方に認知症をもっと知っていただくための機会を設ける。(施設のことでも地域の方に知ってもらうため、施設の見学ツアー等を企画し、理解を深める。 ○認知症の家族と一緒に出かけられる場を作る。 ○認知症の人の支援が出来る人を増やす取り組みを行う。	○地域包括の存在を広く周知するため、市関係機関の窓口で情報発信するための方法やツールの整備。 ○認知症という言葉に拒否反応を示す人が多いため認知症カフェという名称に代わる呼び名の検討。

馬橋地区推進会議（令和元年9月5日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	<p>気になった時に相談できる先や、声を発することができる場所がわからない人が多い。</p>		○	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括の存在をもっと周知していく。 ○近所に気になる人が居た時に情報を伝えられる場や仕組みを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○支所で市や地域包括の取り組みをテレビ画面で流す。 ○支援が必要な状況か判断できるようなチェックリストの作成と普及。
ウ	<p>オレンジ協力員の力を活かす取り組みと工夫が足りない。</p>		○	<ul style="list-style-type: none"> ○オレンジ協力員の数を増やす取り組みを行う。 ○オレンジ協力員の勉強会・交流会を定期的開催していく。 ○オレンジ協力員が実践できる場を考える。 ○オレンジリングの存在と意味を地域に周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○オレンジ協力員の活動記録ノートの作成。